

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2012-52685

(P2012-52685A)

(43) 公開日 平成24年3月15日 (2012.3.15)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
F 2 4 C 15/10 (2006.01)	F 2 4 C 15/10 B	3 K 0 5 1
H 0 5 B 6/12 (2006.01)	H 0 5 B 6/12 3 0 5	

審査請求 未請求 請求項の数 9 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号	特願2010-193443 (P2010-193443)	(71) 出願人	000005821
(22) 出願日	平成22年8月31日 (2010.8.31)		パナソニック株式会社
			大阪府門真市大字門真1006番地
		(74) 代理人	100109667
			弁理士 内藤 浩樹
		(74) 代理人	100109151
			弁理士 永野 大介
		(74) 代理人	100120156
			弁理士 藤井 兼太郎
		(72) 発明者	水谷 幸二郎
			大阪府門真市大字門真1006番地 パナ
			ソニック株式会社内
		(72) 発明者	阪本 敦
			大阪府門真市大字門真1006番地 パナ
			ソニック株式会社内
		Fターム (参考)	3K051 AB02 AD31 CD43

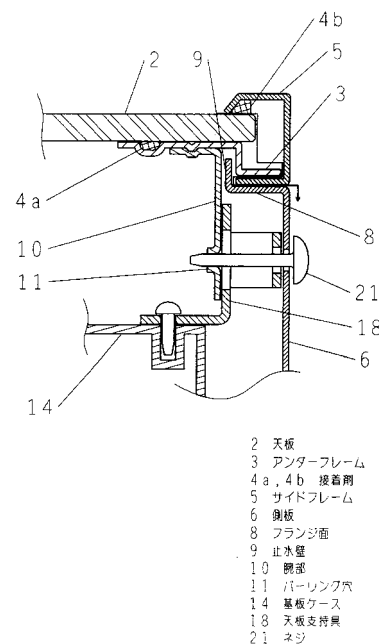
(54) 【発明の名称】 加熱調理器

(57) 【要約】

【課題】 防水性と強度に優れた天板取付構成を有すること。

【解決手段】 天板2を下方より受けて保持するアンダーフレーム3に略鉛直下方へ伸長させて形成した腕部10と、本体1の外郭を構成する側板6の上部端面を本体1内側に向かって曲げて形成したフランジ面8とを備え、本体1内部に固定された構造物に天板支持具18を形成し、側板6と腕部10に天板支持具18を介在させて締結して本体に天板を取り付けることで、防水性を増すために備えたフランジ面8の幅に関わらず、天板の防水性を確保しつつ、堅牢な天板取付構成にすることができる。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

加熱装置を内蔵する本体と、前記本体の天面に配され被加熱調理物を載置する天板と、前記天板を下方より受けて保持するアンダーフレームと、前記アンダーフレームに略鉛直下方へ伸長させて形成した腕部と、前記本体の外郭を構成する側板と、前記側板の上部端面を前記本体内側に向かって曲げて形成したフランジ面とを備え、前記本体内部に固定された構造物に天板支持具を形成し、前記側板と前記腕部に前記天板支持具を介在させて締結して前記本体に前記天板を取り付けた加熱調理器。

【請求項 2】

加熱装置を駆動させる制御基板と、前記制御基板を保持あるいは包囲して本体内部に固定される基板ケースとを備え、前記基板ケースに天板支持具を取り付けた請求項 1 に記載の加熱調理器。

10

【請求項 3】

本体内部に略水平に固定され加熱装置を下方から支持する仕切り板を備え、前記仕切り板を略鉛直上方に折り曲げて天板支持具を形成した請求項 1 に記載の加熱調理器。

【請求項 4】

天板支持具は絞りあるいは曲げ加工によって形成した第 2 の当接面を側板と当接させ、腕部と前記側板に挟み込んで締結して本体と天板を取り付けた請求項 1 ～ 3 のいずれか 1 項に記載の加熱調理器。

【請求項 5】

天板支持具は腕部および側板より強度を有する材料で形成した請求項 1 ～ 4 のいずれか 1 項に記載の加熱調理器

20

【請求項 6】

フランジ面は、内側端面を略鉛直上方に折り曲げて止水壁を形成し、前記止水壁は天板の端面より内側に位置するようにした請求項 1 ～ 5 のいずれか 1 項に記載の加熱調理器。

【請求項 7】

天板とアンダーフレームを共に端面を包囲して挟持する略コの字型のサイドフレームを備え、止水壁が前記サイドフレームの下面端部より本体の内側になるようにした請求項 6 に記載の加熱調理器

【請求項 8】

アンダーフレームは端部近傍に下方へ凸の樋を備えた請求項 6 または 7 に記載の加熱調理器。

30

【請求項 9】

天板支持具は上部に突っ張り面を備え、前記突っ張り面をアンダーフレームと当接させて天板を本体に取り付けた請求項 1 ～ 5 のいずれか 1 項に記載の加熱調理器。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は一般家庭の台所や業務用の厨房などで使用される、据え置き型あるいは組込型の誘導加熱調理器などの加熱調理器に関するものである。

40

【背景技術】

【0002】

従来、この種の加熱調理器における調理器具載置用の天板の取付け構成は、特に、据え置き型のものについては製品の内部スペースなどの制約もあって、天板の外周を覆うトップフレームに直接取付けて本体の天面に配設されるものが一般的であり、天板とトップフレームは接着剤により接着されている。しかし、前記従来の構成ではトップフレームと天板との接着が不十分で隙間が発生した場合や、たとえ初期は水密性が得られていても、接着強度が不十分な場合に天板上に食材を満たした調理器具の重さが繰り返し加わることによって、接着部がその力に耐えきれなくなって隙間が発生し、その隙間から天板上にこぼれた水などが本体内部に浸入して内部の制御回路などに到達して故障を引き起こす恐れが

50

あった。そのため、天板を下方から保持するアンダーフレームを設け、アンダーフレームとトップフレームによって天板を挟み込み保持することで、接着強度が不十分な場合であっても、天板とトップフレームの間に隙間が生じないようにしている例がある（例えば、特許文献１参照）。

【０００３】

また、本体外郭の上部端面をトップフレームが覆うように天板と本体を取り付けており、外観品位を向上させるとともに、本体へ水を入れない構成としている。

【０００４】

図９は、特許文献１に記載された従来の誘導加熱調理器を示すものである。図９に示すように、天板４１はトップフレーム４２とアンダーフレーム４３に挟み込まれ、接着剤４４によって水密性が確保されている。

10

【０００５】

天板４１は本体の上部から略鉛直下方に下ろして、トップフレーム４２が側板４５の上部端面を覆うように取り付けられ、アンダーフレーム４３に備えた下方へ伸長した腕部４６と、側板４５に備えた貫通穴とを締結して、本体と天板を取り付けて固定している。

【０００６】

これによって、天板上で調理時・清掃時などに水を溢した場合にトップフレームを乗り越えた水は、側板の外を伝って下方へ流れるため、本体へ水が入ることを防止している。

【０００７】

また、これによって、外観部であるトップフレームに締結部を設けず、デザイン性に優れた加熱調理器としている。

20

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００８】

【特許文献１】特開２００８－１７７０１０号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【０００９】

しかしながら、前記従来の構成では、図９に示すように、トップフレーム４２と天板４１との隙間が生じないようにしているとはいえ、接着剤４４の不良や当接面の変形といった不具合によっては隙間が生じる恐れがあり、その場合は図９の矢印で示すように本体の内側へ水が浸入することがあるため、本体に内蔵された加熱装置や制御装置といった内部部品に対しての防水対策の必要となるという課題があった。

30

【００１０】

また、天板の隙間から浸入した水を本体の外へ水を排出するために、水受けとして側板の上部端面に内側へフランジを伸長させることが有効であるが、フランジの幅を広くすることによって腕部と側板との距離が離れていくため、天板取付時にネジ締結する際、腕部や側板が変形してしまい取付が困難になることや、取付部の強度が低下するという課題があった。

【００１１】

40

本発明は、前記従来の課題を解決するもので、本体内部への水の浸入による内部部品の水濡れによる故障やトラッキングを防止して信頼性を高めるとともに、天板取付時の作業性および取付部の強度に優れた加熱調理器を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【００１２】

前記従来の課題を解決するために、本発明の加熱調理器は、加熱装置を内蔵する本体と、前記本体の天面に配され被加熱調理物を載置する天板と、前記天板を下方より受けて保持するアンダーフレームと、前記アンダーフレームに略鉛直下方へ伸長させて形成した腕部と、前記本体の外郭を構成する側板と、前記側板の上部端面を前記本体内部に向かって曲げて形成したフランジ面とを備え、前記本体内部に固定された構造物に天板支持具を形

50

成し、前記側板と前記腕部に前記天板支持具を介在させて締結して前記本体に前記天板を取り付けたものである。

【0013】

これによって、防水性を増すために備えたフランジ面を内側へ伸ばした場合、天板を取り付けるための腕部はフランジの先端より内側になるため、側板と腕部の間に空間が生じてしまうが、天板支持具を形成して締結時に介在させることで、フランジの幅に関わらず、腕部や側板を変形させること無く天板の取付を行うことができる。

【発明の効果】

【0014】

天板取付部の強度を有しながら、本体外郭上端のフランジを内側に伸長することが可能となるので、防水性および強度に優れた加熱調理器を提供することができる。

10

【図面の簡単な説明】

【0015】

【図1】本発明の実施の形態1における加熱調理器の分解斜視図

【図2】本発明の実施の形態1における加熱調理器の天板取付時の要部断面図

【図3】本発明の実施の形態1における加熱調理器の天板取付部近傍の断面図

【図4】本発明の実施の形態1における天板支持具の斜視図

【図5】本発明の実施の形態1における仕切り板の斜視図

【図6】本発明の実施の形態1における突っ張り面を備えた天板支持具の斜視図

【図7】本発明の実施の形態1における加熱調理器の突っ張り面を備えた天板支持具近傍の断面図

20

【図8】本発明の実施の形態2における加熱調理器の天板取付部近傍の断面図

【図9】従来の加熱調理器の天板取付部近傍の断面図

【発明を実施するための形態】

【0016】

第1の発明は加熱装置を内蔵する本体と、前記本体の天面に配され被加熱調理物を戴置する天板と、前記天板を下方より受けて保持するアンダーフレームと、前記アンダーフレームに略鉛直下方へ伸長させて形成した腕部と、前記本体の外郭を構成する側板と、前記側板の上部端面を前記本体内側に向かって曲げて形成したフランジ面とを備え、前記本体内部に固定された構造物に天板支持具を形成し、前記側板と前記腕部に前記天板支持具を介在させて締結して本体に天板を取り付けたとすることにより、フランジ面の幅を広げるとともに、腕部を本体内側へ移動させた場合、側板からネジを締め付けた時に腕部が外側へ引き込まれて変形するのを天板支持具が支えて抑えることとなり、フランジ面の幅に関わらず、天板を所定の位置に取り付けることができ、防水性および強度に優れた加熱調理器を提供することができる。

30

【0017】

第2の発明は、特に、第1の発明において、加熱装置を駆動させる制御基板と、前記制御基板を保持あるいは包囲して本体内部に固定される基板ケースとを備え、前記基板ケースに天板支持具を取り付けることにより、本体に基板ケースを組み付けた後に、天板支持具をフランジ面の内側にもぐりこんで取り付けることができ、フランジ面の幅によって基板ケースの組み付けが困難になることが無く、組立作業性・メンテナンス性に優れた加熱調理器とすることができる。

40

【0018】

第3の発明は、特に、第1の発明において、本体内部に略水平に固定され加熱装置を下方から支持する仕切り板を備え、前記仕切り板を略鉛直上方に折り曲げて天板支持部を形成することにより、天板支持具を仕切り板と一体で形成でき、組立作業性・メンテナンス性に優れた加熱調理器とすることができる。

【0019】

第4の発明は、特に、第1～3のいずれか1つの発明において、天板支持具は絞りあるいは曲げ加工によって形成した第2の当接面を側板と当接させ、腕部と側板に挟み込んで

50

締結して本体と天板を取り付けたことにより、側板からネジを締め付けた時に腕部が外側へ引き込まれて変形するのを天板支持具が支えて抑えるとともに、支持具の倒れ・変形および側板の変形を抑えることとなり、フランジ面の幅に関わらず、腕部や側板を変形させることなく天板を所定の位置に取り付けることができ、防水性および強度、外観品位に優れた加熱調理器を提供することができる。

【0020】

第5の発明は、特に、第1～4のいずれか1つの発明において、天板支持具は腕部および側板より強度を有する材料で形成することにより、側板からネジを締め付けた時に腕部が外側へ引き込まれて変形するのを天板支持具が支えて抑える場合、支持具の倒れ・変形を防止できるため、安定して天板を所定の位置に取り付けることができる。

10

【0021】

第6の発明は、特に、第1～5のいずれか1つの発明において、フランジ面は、内側端面を略鉛直上方に折り曲げて止水壁を形成し、前記止水壁は天板の端面より内側に位置するようにしたことにより、天板上でこぼした水が天板の端面から流れたとしても、止水壁が天板の端面より内側になるため、水が止水壁より内側に入らず、本体内部への水の浸入による内部部品の水濡れによる故障やトラッキングを防止し、信頼性の高い加熱調理器とすることができる。

【0022】

第7の発明は、特に、第6の発明において、天板とアンダーフレームを共に端面を包囲して挟持する略コの字型のサイドフレームを備え、止水壁が前記サイドフレームの下面端部より本体の内側になるようにしたことにより、サイドフレームによって機械的に保持して天板の端面を保護しながら、もしサイドフレーム接着強度が不十分な場合に天板上でこぼした水がサイドフレームの内側を伝っても、止水壁がサイドフレームの下面端部より内側になるため、水が止水壁より内側に入らず、本体内部への水の浸入による内部部品の水濡れによる故障やトラッキングを防止し、信頼性の高い加熱調理器とすることができる。

20

【0023】

第8の発明は、特に、第6または第7の発明において、アンダーフレームは端部近傍に下方へ凸の樋を備えたことにより、天板上でこぼした水が天板の端面から流れたとしても、アンダーフレームに設けた樋で水を受けて誘導し、本体内部の下方に落下させても実質支障のない場所に落下させ、最終は本体外に排出することができる。

30

【0024】

第9の発明は、特に、第1～5のいずれか1つの発明において、支持具は上部に突っ張り面を備え、前記突っ張り面をアンダーフレームと当接させて天板を本体に取り付けたことにより、支持具の上下方向の位置が規制されるため、側板からネジを締め付ける際に、ばらつき等による高さのズレが補正され締結が容易になる。

【0025】

以下、本発明の実施の形態について、図面を参照しながら説明する。なお、この実施の形態によって本発明が限定されるものではない。

【0026】

(実施の形態1)

40

図1～7は、本発明の第1の実施の形態における加熱調理器として、台所や業務用の厨房などでキャビネット上に設置して使用される据え置き型の誘導加熱調理器を例示したものである。

【0027】

図2、3に示すように、本体1の天面には、鍋、フライパンなどの調理器具を載置する天板2が配されている。天板2は高耐熱のガラスなどの電磁誘導によって加熱されない材質で構成されている。

【0028】

天板2は下方からアンダーフレーム3によって支持されており、アンダーフレーム3と天板2は接着剤4aによって水密性が保たれている。

50

【0029】

サイドフレーム 5 は略コの字型に折り曲げたステンレスなどの金属で構成され、天板 2 とアンダーフレーム 3 の端面を覆いつつ、天板 2 とアンダーフレーム 3 が離れないように挟み込んで保持している。

【0030】

サイドフレーム 5 の内側と天板 2 の間は接着剤 4 b が充填され水密性が保たれている。

【0031】

側板 6 は底板 7 に取り付けて本体の外郭側面を構成し、側板 6 の上端部は本体内側方向へ略水平に折り曲げてフランジ面 8 を設けており、フランジ面の先端部は上方に折り曲げて止水壁 9 を形成している。

10

【0032】

アンダーフレーム 3 の下面には下方へ伸ばした腕部 10 がカシメやスポット溶接によって取り付けられており、腕部にはネジ締結用のバーリング穴 11 が設けられている。腕部は、天板 2 と本体 1 を取り付けの際に、腕部 10 が止水壁 9 の内側に位置するようにアンダーフレーム 3 に取り付けられている。

【0033】

腕部 10 と、側板 6 に設けた穴を通じてネジ 21 で締結することで、本体 1 と天板 2 を固定している。

【0034】

本体の内部には天板の下方に加熱手段として 2 つの誘導加熱コイル 12 が配され、その下方には制御基板 13 を収納した基板ケース 14 および加熱調理庫としてロースターユニット 15 が底板に固定されている。

20

【0035】

ロースターユニット 15 は上部に空隙を設けて仕切り板 16 を取り付けられている。

【0036】

仕切り板 16 および、基板ケース 14 の上面には誘導加熱コイル 12 を支持する支持軸 17 が形成され、誘導加熱コイル 12 を所定の位置に固定している。

【0037】

誘導加熱コイル 12 は制御基板 13 によって高周波電力が供給される。

【0038】

基板ケース 14 およびロースターユニット 15 は本体 1 へ組み付ける時に上方から鉛直下方へ容易に落とし込むことが出来ように、側板 6 側の端部が止水壁 9 より本体 1 の内側になるようにしている。

30

【0039】

基板ケース 14 の上面には略 L 字形状の天板支持具 18 が取り付けられている。図 4 に示すように天板支持具 18 は板金で構成され、鉛直面の略中央を絞って第 2 の当接面 19 を形成し、その略中央には貫通穴 20 を設けている。

【0040】

仕切り板 16 は、図 5 に示すように側板 6 側の端部を上方へ折り曲げて略 L 字形状とし、鉛直面上の腕部 10 に相当する位置に絞り加工によって第 2 の当接面 19 を形成し、その略中央には貫通穴 20 を設けている。

40

【0041】

本体 1 に天板 2 を取り付けの際は、図 1、2 に示すように上方より天板 2 を下ろしてサイドフレーム 5 の下面とフランジ面 8 を当接させた状態で、側板 6 に設けた穴よりネジ 21 を差込み、天板支持具 18 あるいは仕切り板 16 に設けた貫通穴 20 を通して腕部 10 のバーリング穴 11 で締結している。

【0042】

以上のように構成された加熱調理器について、以下その動作、作用を説明する。

【0043】

まず、天板 2 の上で被加熱調理物である鍋から水を溢したり、清掃中に水を溢したりし

50

た場合を考える。

【0044】

接着による水密性が確保されていれば、水が天板2の端面まで至ったとしても本体内部への水の浸入はない。

【0045】

しかし、サイドフレーム5などフレーム部品の変形や、接着の不備、接着剤4bの劣化による剥がれなどの不具合が発生した場合、図1に示すように、天板2の端面に至った水はサイドフレームと天板2の隙間を通り、サイドフレーム5の内側へ浸入する。

【0046】

浸入した水は、図1の矢印で示すように、サイドフレーム5の内側や天板2表面を伝い、サイドフレームの下面に流れる。サイドフレーム5の下面から本体内部へ流れる水は、側板6に設けられた止水壁9で誘導され、フランジ面8とサイドフレーム5の隙間から、本体1の外側へ向けて流れることになる。

【0047】

以上のように、本体内部へ水が浸入しないようにできるので、誘導加熱コイル12や制御基板13などの充電部に水が付着することを阻止し、故障を防止することができる。

【0048】

一方で、このような防水性を確保するためには、サイドフレーム5端部の内側に止水壁9を配置しなくてはならず、そのためにはフランジ面8の幅をサイドフレーム5の幅より大きくする必要がある。

【0049】

また、組立作業やメンテナンス時に本体1に天板2を取り付ける際に、天板2を上方より下ろして容易にセットするため、腕部10は止水壁9より内側になるようにアンダーフレーム3に取り付けられている。

【0050】

そのため、腕部10と側板6の間にはフランジ面8の幅による空隙が発生することとなる。ここでもし、空隙がある状態で天板2を取り付けた場合、側板6の穴よりネジ21を通して腕部10のバーリング穴11に締め付けていくと、締めこむ力によって腕部10が外側へ向けて変形してしまう。

【0051】

そこで、本実施の形態では、図3に示すように、腕部10の外側面に当接させるように天板支持具18を備えている。これにより、天板2取付時に側板6の穴よりネジ21を通して腕部10のバーリング穴11に締め付けていく場合、腕部10が外へ引き込まれていく力を本体に固定された天板支持具18が受けて支持することとなり、腕部10が変形することなくネジ締結ができ、天板2の取付が完了する。

【0052】

また、本実施の形態では、天板支持具18は図4のように鉛直面の略中央に絞り加工を施して第2の当接面19を形成している。これによって、天板2取付時に側板6の穴よりネジ21を通して腕部10のバーリング穴11に締め付けていく場合、腕部10を天板支持具18が支持して変形を防止するのと共に、第2の当接面19が側板6の内側面に当接して、側板6が内側へ引き込まれる力を天板支持具18が支持することとなるとともに、腕部10と側板6との間の空隙を天板支持具18で埋めることとなる。天板支持具18を挟み込んでネジ締結を行うことで、締結部近傍の強度が増すと共に、ネジ21の緩みを防止することとなり、堅牢な天板取付構成を実現できる。

【0053】

また、図5のように、仕切り板16の端面をL字型に変形させて天板支持具を形成した場合であっても、腕部10と側板6の間に仕切り板16の一部を挟みこむことで、同様の取付構成を実現できるので、同様の効果が得られる。

【0054】

以上のように、防水性を確保するためにフランジ面8の幅を大きくしたとしても、天板

10

20

30

40

50

支持具 18 を介在することにより、堅牢な天板取付構成を実現することができ、防水性や強度に優れつつ、組立作業性やメンテナンス性に優れた加熱調理器とすることができる。

【0055】

本実施の形態では、腕部 10 と側板 6 の距離が離れてしまうことに対して、天板支持具 18 を介在することとしたが、例えば、フランジ面 8 の一部を切り欠くことで腕部 10 の取付位置を止水壁 9 より外側に配置して空隙を無くすることはできる。しかし、フランジ面 8 の一部を切り欠くことで、前述の防水性が失われてしまう。また、側板 6 に絞り加工を施すことで腕部 10 と距離を近づけることは可能だが、外観上の品位や加工性から限度があり、フランジ面 8 の幅に関わらず腕部 10 との距離を無くすることは困難である。

【0056】

また、本実施の形態において、天板支持具 18 は板金で構成されているが、その際板厚を腕部 10 や側板 6 より増すことで変形する力を受ける天板支持具 18 の強度が増すため、締付時の変形防止効果が高まり、より堅牢な天板取付構成を実現できる。

【0057】

また、図 6 のように天板支持具 18 の上端部を折り曲げて突っ張り面 22 を構成することで、図 7 に示すように天板 2 取付時にアンダーフレーム 3 と当接させて押さえ込むことができる。これによって、基板ケース 14 の歪みや、腕部 10 の取り付け時のバラツキなどによる、天板支持具 18 の貫通穴 20 と側板 6 の穴および腕部 10 のパーリング穴 11 の高さ方向のズレが補正されるため、組立作業性・メンテナンス性に優れた加熱調理器を提供することができる。

【0058】

(実施の形態 2)

図 8 は、本発明の第 2 の実施の形態の加熱調理器の要部断面図である。

【0059】

なお、本実施の形態 2 の基本構成は実施の形態 1 と同様であるので、同様な部分の説明は省略し、相違点を中心に説明する。また、実施の形態 1 と同一要素には同じ符号を付してその説明を省略する。

【0060】

図 8 に示すように、本実施の形態ではアンダーフレーム 3 の端部に下向きに凸の樋 31 を設けている。

【0061】

樋 31 は外側の端面を略鉛直に立ち上げ、その一部を天板 2 の端面と当接させて、天板組み立て時の位置決めとしている。

【0062】

サイドフレーム 5 は樋 31 の下面と天板 2 を挟み込んで取り付けられている。

【0063】

以上のように構成された加熱調理器について、以下その動作、作用を説明する。

【0064】

実施の形態 1 と同様に、天板の上で被加熱調理物である鍋から水を溢したり、清掃中に水を溢したりした場合を考える。

【0065】

サイドフレームなどフレーム部品の変形や、接着の不備、接着剤 4b の劣化による剥がれなどの不具合が発生した場合、天板の端面に至った水はサイドフレーム 5 と天板 2 の隙間を通り、サイドフレーム 5 の内側へ浸入する。

【0066】

浸入した水は図 8 の矢印に示すようにサイドフレーム 5 の内側や天板 2 表面を伝い流れるが、天板 2 端面より滴下した水は、直下に配した樋 31 で受けて誘導される。水は下方に流しても支障のないところへ導かれ、本体外郭の隙間より外郭の外へ排出される。

【0067】

以上のように、本実施の形態では、樋 31 によって浸入した水を支障のない箇所へ流す

10

20

30

40

50

ことができ、誘導コイルや電源回路などの充電部に水が付着することを阻止し、故障を防止することができる。

【0068】

また、天板の下面側に下に凸の樋31を設けることで、側板6に備えた止水壁9は防水性を確保するために樋31より内側に配置しなくてはならず、フランジ面8の幅を樋31の幅より大きくする必要がある。そのため、図8に示すように、実施の形態1と同様に天板支持具18を介在することで、腕部10および側板6の変形を防止して堅牢な天板取付構成を実現している。

【産業上の利用可能性】

【0069】

本発明にかかる加熱調理器は、誘導加熱調理器に限られるものではなく、調理器具載置用の天板を備えた加熱調理器であれば適用できる。

【符号の説明】

【0070】

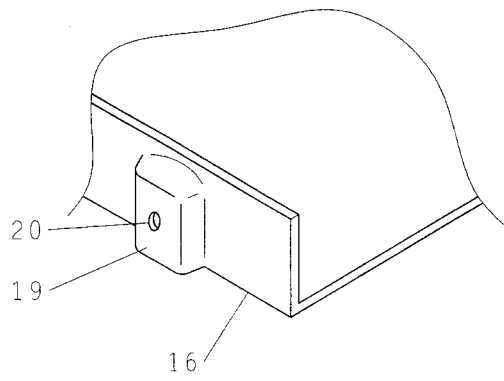
- 1 本体
- 2 天板
- 3 アンダーフレーム
- 5 サイドフレーム
- 6 側板
- 8 フランジ面
- 9 止水壁
- 10 腕部
- 12 誘導加熱コイル（加熱装置）
- 13 制御基板
- 14 基板ケース
- 16 仕切り板
- 18 天板支持具
- 19 第2の当接面
- 22 突っ張り面
- 31 樋

10

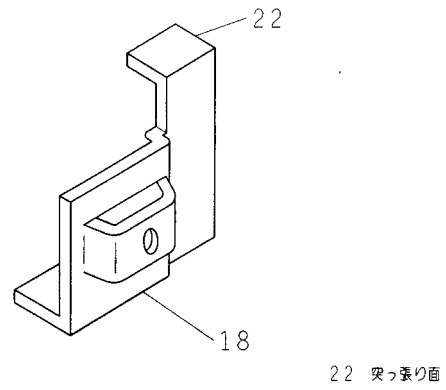
20

30

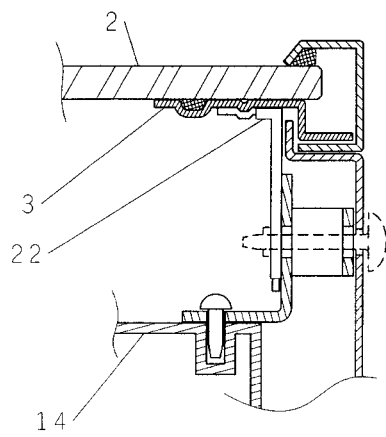
【図 5】



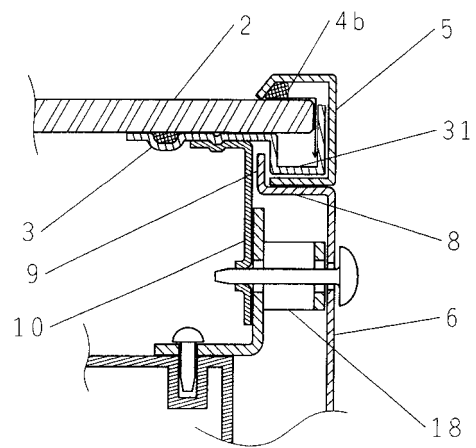
【図 6】



【図 7】

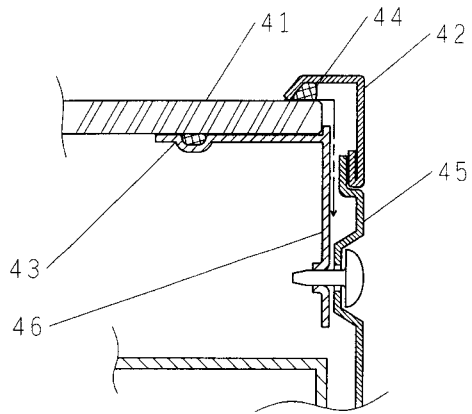


【図 8】



31 樋

【図 9】



- 41 天板
- 42 トップフレーム
- 43 アンダーフレーム
- 44 接着剤
- 45 側板
- 46 腕部